

令和8年度 第1回常滑市子ども・子育て会議 議事録（要旨）

日 時	令和8年5月14日（木）15時00分～16時15分
場 所	常滑市役所1階会議室F
出席委員	15名 竹内（裕）委員、萩原委員、高塩委員、榎本委員、本田委員、田中委員（会長）、桜庭委員、佐藤委員、竹内（龍）委員、鈴木（芳）委員、片山委員、中谷委員、石川委員、堀内委員、鈴木（弘）委員（代理）
欠席委員	2名 小林委員、中村委員
傍聴者	なし

<会議の成立について>

- 委員17名のうち15名が出席し、過半数を満たしているため会議は成立していることを確認。

1 挨拶（こども健康部長）

（こども健康部長）

- 令和5年4月に「こども基本法」が施行され、その中で市町村は国の「こども大綱」と「都道府県こども計画」を勘案して、「市町村こども計画」を作成するよう努めることとされている。
- 本市においても、少子化や若年層の人口流出等が課題となっていることから、先に策定した「第3期常滑市子ども・子育て支援事業計画」に加え、少子化対策や若者支援を含めた「(仮称)常滑市こども計画」を策定し、これらの課題解決に取り組んでいくこととした。
- 昨年度より、施策の当事者である「子育て中の保護者」や「若者」の意見を反映させるため、一般公募により5名の委員、また保護司、人権擁護委員にもご参加いただいている。
- 今年度は、昨年度実施したアンケートその他の意見集約を踏まえ、実際に計画の内容を検討していくフェーズに入る。今回の会議はそのキックオフとして、委員の様々な視点から忌憚のないご意見をいただき、本会議が計画策定に向けて実りあるものになるようお願い申し上げます。

（事務局）

- 常滑市子ども・子育て会議設置要綱により、子ども・子育て支援に関する事業について、ニーズに即した効果的かつ効率的な運用を実施するにあたり、子ども・子育て関係者等から広く意見を聴取するため、常滑市子ども・子育て会議を置くとされている。
- 会議は、委員 18 人以内で組織し、子ども・子育て支援法第 6 条第 2 項に規定する保護者を代表する者、事業者を代表する者、子ども・子育て支援に関する事業に従事する者、市長が適当と認める者とされている。
- 委員の任期は、令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日までの 2 年間。
- 今年度は年 3 回程度の会議開催を見込んでいる。
- 会議は原則公開で、傍聴の希望があった場合は傍聴者の出席がある。議事録は後日、ホームページに掲載する予定。
- 委員会委員について、人事異動に伴い子育て総合支援センター長となった堀内氏が新たに委員となる。その他の委員に変更はなく、会長も引き続き田中氏に願います。以降、田中会長が議事進行する。

2 議題

(1) こども・若者の生活状況に関するアンケート調査の結果について

資料 1

(事務局)

- 昨年度末、「小中学生（小学 5 年生と中学 2 年生）」、「保護者」、「若者（無作為抽出 2,000 名）」を調査対象としてアンケートを実施した。
- 調査期間は 2 月、回答は WEB で回収した。「小中学生」には校長会や学校経由で依頼し、有効回答率は 64.7%、「保護者」にはチラシ配布などの周知で 36.4%、「若者」は個別に郵送し、23.0%となった。市の取り組みに対しての興味などが回答率に現れていると思う。
- 回収率が低いために指標が取れないことはないが、今回の数値を参考にして、次回もし実施する場合には配布数を増やすなど考慮したい。

<小中学生アンケートの結果から>

- 問 3 からは居場所についての質問である。「下校後だれと過ごすか」では、「ひとりでいる」が小 5 より中 2 のほうが 10 ポイント以上高くなっているが、これは年齢の違いを表していると考えている。問 4 「居場所になっている場所」では「家庭」が最も高く、次いで「自分の部屋」、3 番目に「インターネット空間」が入っている。問 5 「家や学校以外の居場所が欲しい」と「思う」が最も高く、中 2 より小 5 の方が高い。問 6 「どのような場所が良いか」では、「好きなことやりたいことができる」が最も高く、次いで「信じられる人や味方になってくれる人がいる」「いつでも行きたい時に行ける」となっている。
- 問 10 からはヤングケアラーについての質問。問 11 「手伝いをすることで学校に

行けない、眠れないなどの支障があるか」では全体で「はい」が11%おり、学年別では小5が中2より高くなっている。

- 問 12 からは、インターネットが身近になったことでどのような課題があるかと聞いたものである。問 12-1「スマホやパソコン、タブレット、ゲーム機などを使ってすること」は、「動画を見る」のが最も高く、続いて「SNS」、続いて「オンラインゲーム」。問 12-2「トラブルに巻き込まれたこと」では、「ない」が81%と数字は多いが、何らかの怖い思い、嫌な思いをした子の回答が多く書かれている。学年別では中2で「悪口を書き込まれた」や「ネット上で知り合った相手とトラブルになった」とあり、他のところより高くなっている。
- 問 16「生活にどのくらい満足しているか」を聞いているが、平均点では小5で7.3点、中2で6.6点、平均点としては上の水準で満足している子たちがある程度いることになっている。その一方、問 17⑤「自分は役に立たないと強く感じるか」では、「当てはまる」が38.1%あって、「あてはまらない」よりは低い、ここは少し注意するところだと考えている。
- 問 18 からは居場所について「どのような場所があれば使ってみたいか」を聞いている。「家でできないとき静かに勉強ができる場所」が最も高く、次いで「家以外で休日にいることができる場所」「なんでも相談できる場所」と続いている。①からはそれぞれ小5と中2の違いを見ていただくグラフである。
- 問 19「将来の夢があるか」という質問では、「考え中」が最も高くリアルな回答だと思うが、続いて「ある」が42.8%、「ない」が6.8%だった。問 19-1では「将来の夢はなにか」を自由に書いていただいている。こどもたちの素直な思いがあり、サッカー選手や野球選手、YouTuberやプロゲーマー、パティシエも多かった。夢を持ってきている子たちもいる一方、問 19-2で「将来の夢がない理由」を聞いているが「何も思い浮かばない」が最も多く、「夢を叶えるのは難しい」という理由が続いている。学年別では小5で「叶えるのは難しい」と答えている子が中2と比べて多いのが気になるところである。
- 問 20「こどもの意見を聞いてもらえていると思うか」という質問では、「聞いてもらえている」が49.8%あり、比較的聞いてもらえていると答えてきているが、今まで常滑市としてあまりできていない部分だと考えているので、これから取り組んでいきたい部分である。
- 問 21「こどもまんなか社会」の実現に向かっていていると思うか。これも小中学生には難しい設問だったとは思いますが、国の指標との兼ね合いで聞いている。「向かっていると思う」が39.2%、「思わない」が16.4%、「分からない」が43%あった。注意書きはあるが、イメージしにくかったかと思う。
- 問 22「常滑市の取り組みについて自分の意見や思いを伝えたいと思うか」では、「思う」が19.1%、「思わない」が38.9%で、「伝えたい意見はない」が40.6%という結果になった。問 22-1では伝えたい思いを書いていた。意見は分野ごとにまとめているので、アンケート結果としてこちらでもしっかり受け止めて

見ていきたいと思っている。

- 問 23「常滑市に住み続けたいと思うか」という質問では、「住み続けたい」が最も高く、続いて「わからない」。「引っ越したい」も 10.7%いるという結果になった。問 23-1「どのような常滑市であれば住み続けたいと思うか」では、「友達と集まれる場所や遊べるところがある」が最も高く、続いて「地元でやりたい仕事や進みたい道が見つけれられる」、「自然があってリラックスできる」という順番になっている。
- 問 24「こどもの権利」については常滑市で今まで取り組めていなかった部分であるので、今後やっていきたい。「こどもの権利について知っているか」では、「聞いたことがない」が最も高く、「内容はわからないが聞いたことがある」「内容について少し知っている」という順番になっている。来週末に行うワークショップの中でこどもの権利について勉強していくので、それをきっかけにして今後色々取り組みたいと考えている。問 25「こどもの権利が十分に大切にされているか」では、「大切にされている」が 50%、「されていると思わない」が 9%、「わからない」が 38%であった。問 26「こどもの権利を守るためにどんな仕組みがあるといいか」では、「こどもに学校などで教える」が最も高くなっている。

<保護者アンケートの結果から>

- 56 ページ問 2、回答者は「母親」が 91.7%という結果だった。
- 問 4「両親の就労状況について」は、全体で父母ともに働いているが 81.3%、これは現在、共働き世帯が増えていることを表している。
- 問 9「お子さまの習い事」は「スポーツ・ダンス」が最も高く、続いて「学習塾」さらに「部活動（クラブ活動）」であった。小 5 保護者より中 2 保護者がどれも高くなっていて、勉強の高度化や高校受験などの影響があるかと思う。
- 問 12「無料の学習支援制度を利用したいか」では、「利用したいと思う」が 54.9%と最も高くなっている。現在は対象者は限定的だが、平日夜や夏休み等に市役所の会議室を開放して学習支援を行っている取り組みがある。
- 問 14「お子さまが希望通りに進学するか」という質問で希望通り「進めない」と答えた保護者に、その理由を問 14-1 で聞いている。理由としては「学力が不足しているため」が最も高くなっていて、次いで「本人の希望と異なっている」「経済的に余裕がない」となっている。
- 66 ページ、問 15 から子育ての悩みや相談について。全体の総括としてお子さまの教育費、進学や受験のことが心配だという回答が多く見受けられた。
- 問 16「お子さまに関すること以外の心配や悩み事があるか」という質問では、「収入・家計・借金等」のお金に関する悩みや心配事が最も高いという状況だった。
- 71 ページ各種支援サービスについて。問 18「次の支援・サービス等を利用したことがあるか」では、市や周辺の機関で行っている支援サービスを利用したことがあるかを聞いている。「①子育て総合支援センター・地域子育て支援室」、「④こど

もの医療費助成」「⑪児童館」「⑫放課後の育成クラブ」などが5割を超えて高くなっている。知らないものでは「⑥教育支援センタースペースばる～ん」が80%と最も高く、続いて「⑦くらしひきこもり相談支援センター」が71.8%、続いて「⑩母子父子自立支援員（ひとり親支援）」となっている。72ページからは、それぞれの支援について詳しくグラフを掲載している。

- 「教育支援センター」は適応指導教室で、様々な理由で学校に通えない子たちが勉強をしたり、学校に戻れるように訓練したりする事業。この事業に限らず、今後の取り組みとして、知らなかったから使えなかったということがないように、使いたい方がこれらのサービスに繋がっていけるようにしていく必要があると感じている。
- 問19「子育てに関する情報をどこから入手するか」では、全体で「友人・知人」が最も高いという結果であった。ママ友、パパ友なども含むと思われる。続いて「学校」、「市の広報ホームページ」と続いている。
- 問20「常滑市の子育ての環境や支援への満足度」では、0～5点のうち、全体で「3点」が41.7%と最も高い。平均点が2.7なので、これが皆さんの素直な採点かと考えていて、市としてもこれは少しでも上げていかないといけない。
- 問21「現在必要だと思う支援」が「ある」が50.9%、「ない」が49.1%で半々ぐらいになっている。問21-1では「どのような支援が必要か」を聞いているが、全体で「保育や学校費用の軽減」が最も高く、続いて「こどもの居場所作り」さらに「放課後の学習支援」という順になっている。
- 問22「こどもまんなか社会の実現に向かっているか」では、「向かっていると思う」が43.3%、「向かっていない」が56.5%。向かっていないが多いのが現状であり、これも数値を上げていきたい部分である。
- 問23「こどもの権利が十分に尊重されているか」では、「尊重されていると思う」が60.2%、「尊重されていると思わない」が39.8%という結果であった。
- 問24「こどもの権利を守るためにどのような仕組みがあると良いか」、これは小中学生にも聞いた設問だが、それと同様に「学校で教える」が最も高いという結果であった。

<若者アンケートの結果から>

- 87ページからの若者アンケートは、対象年齢が15歳から39歳までの方を無作為抽出して2,000人に送った。常滑市全体の中学校区の人数割と、年齢の割合を当てはめて抽出した。
- 問1の回答者は「35歳～39歳」が32.7%と最も高く、続いて「30～34歳」、3番目は「15歳から19歳」が16.1%だった。
- 問2「性別」は「男性」が37.9%、「女性」が60.6%であった。
- 問3「お住まいの中学校区」は「常滑中学校区」が37.7%で最も多く、次に「鬼崎中学校区」が29.6%。これは先ほど申し上げた通り、人口の全体のバランスに

よって送付しているのです、この2つが多くなっていると思われる。

- 問4「結婚しているか」では、「結婚している」49.5%、年齢別で当然ではあるが「35～39歳」が最も結婚している方が高かった。
- 問6「現在の職業」では、「正規の社員・職員・従業員」が最も高く、続いて「生徒・学生」「パート・アルバイト」という順番であった。93 ページはクロス集計で、それぞれの年齢でどの項目が多かったかを表している。黒塗りの箇所が最も高かったもの、グレーの網掛けが2番目に高かったものである。年齢が高くなるに応じて正規の社員も高くなっているということである。
- 問8「あなたにとっての居場所はどこか」では、全体では「家庭」が最も高く、続いて「自分の部屋」、3番目に「インターネット空間」。小中学生の結果と同じ傾向にある。
- 問9「居場所としてどのような場所があると良いか」では、「くつろげる環境が整っていてひとりでも気にならない」が最も高く、「ありのまま素のままですらわれる」が続いている。また、「信頼できる人味方になってくれる人がいる」が高い数値となっている。
- 問10「社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験があるか」では、挫折や悩みなどがあつたかをお聞きしている。全体で「あつた」が54.5%、「なかつた」が40.4%という結果であつた。
- 101 ページからは「回答者の気持ちや考えについて」を聞いている。問13「どの程度孤独であると感じることがあるか」では、全体では「ない」が48.2%、「ある」が51.8%で高かつた。年齢別では「22～25歳」で「ある」が67.9%で、ほかの年代と比べて高くなっている。
- 問14「悩んでいることはあるか」という質問では、「お金のこと」が最も高く、次いで「将来のこと」「仕事や就職のこと」と続いている。
- 109 ページ問15「困つた時に助けてくれる人は誰か」では、「親」が80.8%と最も高く、続いて「恋人や配偶者」が52.1%、「知人・友人」が47.5%である。110 ページにはクロス集計で年代別の数値が出ているが、「26～29歳」からグレーの箇所が「友人・知人」から切り替わっていて、結婚する年代で変わってきているのではないかと思う。
- 111 ページ問16「悩みや不安を感じた時に、家族や知り合い以外に相談するのは誰か」という質問では、全体で「匿名で相談できる」が最も高かつた。また「相手が同じ悩みを持っている・持っていた」が続いて高く、三番目には「無料で相談できる」があがっている。
- 117 ページ問20「将来結婚したいか」、少子化対策に関わる質問が続く。全体で「結婚したい」が73.2%、「結婚したくない」が16.4%という結果であつた。問20-1「結婚したくない理由」として「結婚の必要性を感じないから」が60.5%と最も高く、続いて「他人と一緒に行くのが面倒、煩わしいと感じるから」が44.7%、「仕事や趣味など自分のやりたいことがあるから」とか「使えるお金や時間が減

りそうだから」という答えになっている。

- 問 21「行政に対してどのような結婚支援サービスを期待するか」では、「特にない」が 43.8%と高かった。続いて「出会いの機会を創出するイベントの開催」が 18.1%、「結婚希望者を登録して行う引き合わせ」が 11.1%で、意外と行政には求めているのかという印象であった。
- 問 22「将来子どもを持ちたいか」では、全体で「持ちたい」が 39.2%で最も高いという結果になった。続いて「すでに子どもがいる」が 24.4%、「子どもを持ちたくない」が 9.6%。年齢別で見えていただくとわかる通り、やはりまだお子さんがいない若いカテゴリのところで「子どもを持ちたい」が高くなっている。
- 121 ページ、市の取り組みについて。問 23「常滑市から発信される情報を閲覧したか」では、「広報とこなめ」が 44.0%で最も高く、次に「どれも見ていない」、これが高いのも課題であるが 40.7%、続いて「町内会の回覧板」が 24.4%だった。
- 問 24「常滑市において結婚・妊娠・子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっていていると思うか」では、「向かっていると思う」では全体で 50.1%、「思わない」が 49.7%で、ここでも半々の状況であるので今後上げていきたい。
- 問 25「ヤングケアラー」についての質問では、「内容について少し知っている」が最も高く、続いて「内容まで詳しく知っている」が 31.4%、「聞いたことがない」が 16.3%。少しずついろいろな場所で言葉が出てきている結果かと思っている。
- 問 26「常滑市において子どもまんなか社会の実現に向かっていていると思うか」では、全体で「向かっていると思う」が 20.9%、「思わない」が 33.6%、「わからない」が 45.5%。この言葉自体がイメージしにくいこともあるかと思うが、「向かっていると思わない」が高いのでここは市として課題の部分である。
- 126 ページからは子ども・若者の意見反映について。若者支援は今までできておらず今回やっていきたい部分であり、結果に如実に出ている。問 27 では「聞いてもらえていると思う」が 22.9%、「いないと思う」が 42.7%。子どもや子育て世帯の結果に比べ、「聞いてもらえていない」が高いことが見て取れる。
- 問 28-1 で「自分の意見や思いを伝えたい」という方にどんなことを伝えたいかを書いていただいている。ここも、常滑市がまだまだだということを表していると思う。いろいろなご意見をいただいており分野ごとにまとめてあるが、内容を市でもしっかり読み込んで担当に繋ぎ、情報提供していきたいと思っている。
- 問 29「どのような方法や手段であれば自分の意見を伝えやすいか」では、「インターネットのアンケート」が最も高かった。数々のご意見をいただいたのも、伝えやすいと思っていただけではないか。
- 問 30「今後も常滑市に住み続けたいか」では、全体としては「住み続けたい」が 50.5%と最も高い結果であった。年齢別で見ると「22～25 歳」の「他の市町村に転居したい」が 21.4%で、他の年代より高い。大学卒業して社会人になったりする世代で転居したいが高いのは課題だと思う。問 30-1 の「住み続けたい理由」では、市にすごく魅力があるというよりは、「両親や親戚、身内が住んでいるから」、

あとは「住み続けて慣れていて愛着を感じるから」、などが上位にある。「日常の買い物や飲食に便利だから」という答えもいただいている。「子育てがしやすいから」というのはまだ 6.5%であるため、ここを選んでいただけるように頑張っていきたいと思う。問 30-2 で転居したい方に聞いた設問で、「どのような常滑市であれば住み続けたいか」では、全体で「子育てしやすい」が 35.3%である。やはりこれが先ほどの裏返しで、子育てしやすいが先ほどポイントが低かった分、ここが伸びれば住み続けたいと思っていただけるということを表している。

- 問 31「常滑市に必要な取り組み」では、全体では「お金の心配をすることなく学べる支援」が最も高く、続いて「安心して住み続けられる住まいの確保や住宅取得への支援」また「子どもや若者同士が集まったりして自由に過ごせる場の設置」という順番になっている。
- 143 ページでこどもの権利についてお聞きしている。問 32「こどもの権利を知っているか」では、「聞いたことがない」が 34.6%ということで最も高かったという結果になった。
- 問 33「こどもの権利が十分に尊重されているか」では、「尊重されている」が 34.7%、「思わない」が 17.9%、「わからない」が 45.7%という結果となった。これは問 32 で聞いたことがない方が多かったため、わからないという答えが多かったのではないかと考えている。
- 問 34「どのような仕組みがあるといいか」では、この3つのアンケート共通で「こどもの権利について学校等で教える」が最も多い結果となった。続いて「市民に広くこどもの権利について周知する」が 32.9%だった。

主な質疑、意見等

- 質疑なし

(2) 今後の意見聴取について (全体像・ワークショップ・支援者ヒアリング)

資料 2-1

資料 2-2

資料 2-3

(事務局)

<資料 2-1>

- アンケート調査や、各種の取り組みの全体像を図にした資料である。
- 5月 24 日に「子ども・若者ワークショップ」を開催する予定である。定員は 20 人で応募が現在 14 人（内訳：小学生 6 人、中学生 3 人、高校生 2 人、若者の学生 3 人、若者の社会人 0 人）募集期間を延長して引き続き声掛けをする。募集は小中学校経由でのチラシの配布、LINE での周知のほか、常滑高校や中部国際空港の若い従業員、また市内の事業所が入っている商工会議所にも周知をお願いしている。ワークショップのテーマは「こどもの権利を守られる常滑市ってどんな

まち?」。こどもの権利の周知の機会として、「広報とこなめ7月号」においてこのワークショップの紹介と絡めて「こどもの権利」についての特集を組んでいただく予定である。今後も少しずつこどもの権利についてのPRをしていきたい。

- 「支援者ヒアリング」について。特別な配慮が必要だったり困難を抱えていたり、普段我々とは接点がない子たちの状況を把握させていただくために、その子たちを支援している団体にヒアリングをさせていただく。対象支援団体はまだ候補の案であるが、例えば社会福祉協議会、主任児童委員、保護司、人権擁護委員、少年補導委員、地域の支援センターや支援室、またSSW（スクールソーシャルワーカー）、家庭児童相談員、子ども食堂などを検討している。
- 「意見聴取ボード」について。対象は中学生から39歳の若者、幅広く意見をいただきたい。図書館がある青海公民館、南陵公民館、市役所の子ども図書館、市民交流センター、また常滑駅前の24時間営業のセルフカフェにもご協力をいただき、本日設置をした。個々からの具体的なお願いというよりは、テーマを「10年後、こども・若者がワクワクする常滑ってどんなまち?」としてキーワードを抽出するような形で実施させていただく。
- 「オンライン意見箱」について。日頃から何か思いを持つ方が自由に意見できる場所として2月から設置をしている。LINE等でも周知を行ったが、それでもまだ届いてない方もいるので引き続き周知をしていく。市を良くするためのアイデア、市長に聞いてほしいこと、またヘルプの意味で誰にも相談できず困っていることなども投稿できるような形にしている。現在までに9件の意見があった。意見の内容についてはホームページ等で、それに対する市の考えなども踏まえて今後出したいと考えている。
- これらの各取り組みの内容を材料として事務局で検討し、庁内検討部会、さらにこの子ども・子育て会議で検討をする。また、広く皆さんに計画策定へのご意見をいただく場として「パブリックコメント」を1ヶ月程度設け、その内容を反映した上で最終的に策定するという流れになる。

<資料2-2>

- 5月24日に実施するワークショップについての資料である。まず自分たちが特に大切だと思う「こどもの権利」はなにかについてワークをしてもらい、続いてその権利を守るために市や大人に「やってほしいこと」、自分たちに「できること」を考えてもらうのが主な流れである。資料2、3ページに具体的なスケジュールとツールのイメージを掲載しており、当日集まった子たちと一緒に考えていきたいと思う。なお、市長も参加予定であり、市長も交えて一緒に考える機会になればと思っている。

<資料2-3>

- 「支援者ヒアリング」は、支援している側に実施する調査である。普段の活動内

容や課題など、こども・若者の状況について把握されていることをお聞きする。また、どのような取り組みで意見反映しているか事例を聞いて、参考にさせていただきたい。各団体がどういったところと連携したいか、地域に協力を求めたいか、市への要望についても答えていただきたいと思います。

主な質疑、意見等

(委員)

- 「支援者ヒアリング」の対象支援団体について、常滑市には児童養護施設として「クローバーライト」や「美桜の杜」などがあるが、児童養護施設や障害児を支援する放課後等デイサービス、児童発達支援事業所などには実施しないのか。

(事務局)

- 放課後等デイサービスや児童発達支援の事業所とは、普段から連絡会議を行ってある程度の情報収集ができていることから、改めて今回は実施しない予定である。ただ児童養護施設については、これを機会に実施するかを検討する。

(委員)

- 「オンライン意見箱」に寄せられた意見の公開とフィードバックについて、良い取り組みだと思う。「意見聴取ボード」の意見のフィードバックもして欲しい。

(事務局)

- 「意見聴取ボード」で具体的に聞いたことについてのフィードバックは難しいが、パブリックコメントの期間、ボードを置いた場所で「このような意見をいただいたことでこういう計画ができそうです」というようなフィードバックをしたい。

(委員)

- 「意見聴取ボード」を設置した場所でパブリックコメントを募集するのか。

(事務局)

- そうである。基本的な場所に加えて、実施することはできる。

(委員)

- アンケート調査の対象者に対してのフィードバックはあるのか。

(事務局)

- アンケート報告書はホームページに掲載し、LINEなどでお知らせする。また、先ほどと同様にパブリックコメントの時にフィードバックする形になろうかと思う。

(委員)

- パブリックコメントに通常とこども用とあるが、こどもにわかりやすい内容を別につくるのか。

(事務局)

- 今回はワークショップもあり、「できること」「できないこと」、「どうなるのか」

ということは子どもにも意見を聞いてやるべきだと思う。大人用とは別に実施したいと思っている。

(委員)

- 最終的な子ども計画では、他の自治体で子ども計画の「子どもバージョン」があるが、それも考えているか。

(事務局)

- それが「概要版」という扱いになると思う。

(委員)

- 子どもたちにもわかりやすくということか。

(事務局)

- そうである。

(委員)

- ワークショップの応募が14名（最終的に16名）いて、参加してくれるのはかなり貴重で意識の高い人が多いと思う。今後、こういう人たちを増やして、市のことを考える子どもを育てていくのが良いと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

資料3

(事務局)

- 今後、さまざまな意見を集める活動、取組みをしていく。6月頃に各種結果を取りまとめながら「骨子案」として計画のおおよその骨組みを検討していく。骨子案は庁内の検討会議を経て、8月頃に皆さまへお示ししたいと思っている。具体的な事業について考え、「既存事業の棚卸し」では既にやっている事業がどのようなものであるか、どういった課題があるかを子育て支援課だけでなく関係課を含めて検討する。骨子は表立った骨組みであるが、事業がそれぞれの具体的な施策、取組みである。それらをまとめて「素案」を9、10月頃につくり、庁内会議と皆さまにお示しするのは11月頃を予定している。後半に入って「概要版」の検討も進めながら、市の幹部の会議や議会にお示しするのが12月で、それから1ヶ月程度パブリックコメントを実施する。いただいた意見に対して検討部会、庁内会議で内容を検討して、市の考えを公表するのが令和9年の2月頃、子ども子育て会議では最終版の確認をしていただく予定である。現時点では書面の予定で、ご了解をいただいた上で3月に印刷・製本に入るという流れになる。

主な質疑、意見等

- 質疑なし

3 その他

(委員)

- 若者アンケートの最後の質問にあった「日本の将来」について、「暗い」という回答が多かった。全体を通して思ったことだが、若者、20代、30代の意見が集まっていない状態なのか、関心が薄いのか、回収率も低く、聞き取りされていないまま進んでいかないかが気になっている。私は若者に入る年齢で、同年代として意見をもっと聞いてみたい。

(事務局)

- 今後予定している取り組みで意見聴取をしたいが、反応がない、意見を取りにくいのは悩みどころである。社会の中での意見の集め方を見ても、例えば選挙の投票率が若い世代に反応が出にくいことに通じる部分かと思う。何かしらの方策を絞りだしていく必要がある。

(委員)

- 若者の意見として、例えば保育士や看護師資格を取得した後に市で働いていただける方や、常滑に住む若者向けに引越しや家賃、奨学金の補助などがあると良い。

(事務局)

- 若者に選ばれる自治体としてインセンティブになると思うが、当然予算的なものも関わってくるので、考えていけるといいと思う。

(委員)

- 私の息子は高校生で、市の施策にとっても興味があって意見をしたいのだが、その場がないと言っている。小中学生にはアンケートがあるが、高校生、大学生にも場を設けて欲しい。ワークショップにも興味があるが部活との兼ね合いがあって出られないので、複数回実施してほしい。たくさん意見が欲しいと市役所からも言っていたら良いと思う。

(事務局)

- 高校生も部活や勉強で忙しいので、回数を設けたり、曜日を考えたりという工夫が必要かもしれない。

(社会福祉協議会)

- 社会福祉協議会からお知らせする。8月7日(金)午後、イオンモールで漫画家の棚園氏の講演会を予定している。誰でも聞いていただけるような講演を予定している。講師の棚園氏は、不登校の経験を9年されて、漫画家の鳥山明さんと出会ってから漫画家を志したご自身の体験を講演したり漫画を執筆されたりしている。チラシは現在作成中である。

(事務局)

- 次回は、8月上旬に第2回会議を開催させていただく予定である。

以 上